

第1期 小郡寺子屋「志学舎」報告書【第17講座】

開催日 2023年2月25日（土）

● 時間 9:30～16:30

● 場所 小郡市生涯学習センター（小郡市大板井）

● 参加者

■第1期生13名（欠席：3名）

■木村 貴志 塾長 / 森 就子（事務局） / 井上 和樹（事務局） / 西山 茂代（事務局）

■有限会社共栄資源管理センター小郡 代表取締役社長 野崎 千尋 様

● 内容 第5回経営者講話

9:30～10:45 少年教育10原則朗唱、塾生レポートから学ぶ

11:00～12:00 第5回経営者講話 有限会社共栄資源管理センター小郡 代表取締役社長 野崎 千尋 様

12:00～13:00 昼食（お弁当）

13:00～14:00 経営者講話振り返り

14:10～15:40 グループでのコミュニケーションについて（グループワーク）

15:50～16:30 論語素読、卒塾式に向けて

■少年教育10原則朗唱、塾生レポートから学ぶ

○少年教育10原則朗唱

<塾長より>

卒塾式では、塾生がリードして読むことになる。大きな声で！！

○塾生レポートから学ぶ

前回講座（第2回スピーチコンテスト）の塾生レポートを塾長が読み上げ、他の人のレポートから学ぶ。

<塾長より>

- ・今回のレポートはみんなよかった。他人のレポートを聞いてメモしていくこと。
- ・自分が大事だと思ったところをメモする。学校と違い、自分で大事だと思う箇所を判断する必要がある。
- ・レポートに「大人になる」との言葉が出てきたので、新聞記事を読む。

「人を大人たらしめる教育の不在（木村塾長）」（2018年7月11日付 産経新聞）

●子どもも大人も様々な直接間接の体験から情報を得て、自身の価値観を形成するが、学校では「知識の習得」が大半を占め、家庭の時間もTV、ネット、SNSに費やされていると聞く。

●18歳成人は明治維新时期が20歳成人を定めて以来の改革と言うが、精神的に当時より日本人が「大人」になっているかは疑わしい。

●明治維新时期の偉人たち（吉田松陰や橋本左内など）は、まずは自分自身が立派となり、周囲に徳を広め人々を感化し国や世界を素晴らしいものにしようとの考えがあった。

●大人になるには、洋の東西を問わず、人間の精神に良き影響を与えてきた名著に触れることが必要。そこに描き出された人間洞察の深さ、言葉の重みを鏡として己の言動を省みることが精神を成熟させる。

●知識の暗記ではなく、プリンシプルを学び、時事問題に触れ、実社会を生きる大人たちの本気でごまかしのない言葉に触れることで、子どもは大人に敬意と憧れを抱き、それが考えや意思を自分の言葉で臆せず語る力を育む。



【塾生感想】

- ・レポートでは、すごいところや真似したいところを書いてあり、聴く力が成長していると感じた。
- ・同じスピーチを聴いても、自分では思わない、気付かないことを書いていて、たくさんの発見があった。
- ・自分の気持ちを素直に話していると感じた。
- ・いい部分と悪い部分を書いてあり、すごいと感じた。
- ・スピーチをメモすることをやっていこうと思った。
- ・あと3年で大人になる（18歳成人）ことを思うと、せっかく寺子屋で学べているので、周りに影響を与えられるようになりたい。

○新聞記事より（時事問題を感じる）

「消費者物価4.2%上昇」「食品高騰、値札以上に」（2023年2月24日付 日本経済新聞）

「デジタル人材育成に力」「大学の必要科目、入試に」（2023年2月25日付 日本経済新聞）

<塾長より>

- ・物価の上昇という変化を、アンテナを立てて知ろうとしなければ知ることができない。そのような中で、みんなの行動はどうかを考えてほしい。
- ・世界はつながっている中で、一人ひとりがどう行動していくか考えてほしい。
- ・危機を感じる必要がある。その中で自分が何をやるのかを考えること。

【塾生感想】

- ・自分が気付くことは少ない。世の中はつながっていると感じた。
- ・塾長が本物は避けてならないとあっており、本物を避けないようにしていきたい。
- ・何回も書いていると、自然と喋ることができることに気づいた。
- ・いい情報に触れる機会を増やしたい。

○塾長から塾生へ（第2講座でも伝えたこと）

☆学び方を変える

- ・OUTPUTを前提としたINPUT（攻撃的に聴く）
⇒ここで得た情報を組み立てる（これが基本）・・・組み立てないと書くことができない。
- ・プリンシプルを身につける
- ・人の生き様として歴史を学ぶ

☆学校での勉強（知識の習得）も必要・・・受験はこれでは戦えない。

しかし、社会での勉強も意識する必要がある。（正解は最適解であり、一つではない）

☆次代を担う子どもたちに必要なもの

- ①プリンシプルを持つ
- ②自分の考えを持ち、伝える力を持つ
- ③人間力を高める（志の確立）
- ④体力と気力を蓄える（自分は何をしたいのか）



個の確立
(グローバル対応力)

☆益友と損友（橋本左内）

益友は、①厳格、意志が強い、正しい心②温和、人情に厚い、誠実③勇気・果断④才智⑤度量が広いの5つの特徴がある。これらの特徴を持つ人との付き合いには気遣いが多く、皆に嫌われている。

一方、損友は、他人にへつらい、気に入られるようにおもねることをもっぱらとし、小利口で落ち着きがなく、軽々しい加減な性質なもの。こういう人のほうが気軽に付き合い合えそうな気がするが、聖賢豪傑になろうと志す人は、友を選ぶにあたり、彼らとは違う厳しい目を持たなければならない。

■経営者講話 有限会社共栄資源管理センター小郡 代表取締役社長 野崎 千尋 様

①会社の紹介

- ・ ミッションステートメント(会社の理念) : みんなの生活を快適にします
- ・ 共有価値 : 1. 出会いに感謝し、大切にします。
2. お客様の想いを大切にします。
3. 仲間や家族の幸せを大切にします。
4. 一歩先を目指して、常に変化・挑戦し続けます。
5. 笑顔、笑顔、笑顔。笑顔の輪を広げます。



②子どもの頃になりたかった仕事

- ・ 子どものころになりたかったのは「荷馬車引き」

片道4km以上ある小学校の下校の時に会える荷馬車引きのおじさんが、荷物がのっていない荷台に乗せて途中まで送ってくれた経験。⇒ 結果として、なりたかった仕事に就くことができる。

③人との出会いは財産

- ・ 生まれ育った場所や環境、時期は自分では選べないが、その与えられた環境の中で、人と出会っていくことは努力すれば可能。

(家族・友人以外で私を導いてくれた人々)

- ・ 小学5・6年生担任・・・厳しい人だったが、プラトンやソクラテスの話をしてくれた。

また、親鸞の歌「明日ありと 思う心の 仇桜 夜半に嵐の 吹かぬものは」
を教えてくれた。(今日一日を大切に生きる。先延ばしにしない。)

- ・ 高校生担任・・・若いうちに広い分野のことを勉強したほうがいと勧められ、退学を思いとどまる。
- ・ 大学生・・・経済や社会の仕組みを教わる。
- ・ 社会人・・・読書の大切さや、経営をやるなら簿記をやるべきと勧められた。

⇒多くの人から学ぶことができ、「自分以外はみんな私の師」との思い

④大学生のころ社会のためになる仕事を考え始めた

- ・ 大学生のころ、三池炭鉱の炭鉱労働者のお子さんの勉強を手伝う「三池夏季児童対策活動」に参画し、一つのことだけでなく、広い考え方を養うことができた。

⑤大切にしていること



- ・ カラスの散らかしたごみを収集時に掃除する
- ・ 敷地内までごみの収集に入る(お年寄りなど)
- ・ 収集業務を兼ねて地域安全パトロール
- ・ 「普通救命講習」「認知症サポーター研修」を3年おきに受講
- ・ 傘のリサイクル(雨天時に貸し出す) など

⑥会社の取組

- ・ 社員とのコミュニケーション(内定者の自宅訪問、誕生日祝い、結婚祝いなど)
- ・ 親孝行手当・・・親に感謝することができないと、お客様に感謝できないとの考え
- ・ 教育支援手当・・・子どもが学問の志を持っている家庭を支援したいとの思い

⑦最後に

- ・ 夢はあきらめない限り実現する(こつこつやればできる!!)
- ・ もっとも有意義な競争は自分との競争
- ・ 「人間は一生のうちに逢うべき人に必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。」(森信三)

【質疑応答】

Q1. 地域貢献をするときに大切にしていることは？

A1. 仕事は人々の役に立つことだと思うが、その一歩先を行くことが大切だと考えています。何よりもお客様からの信頼・支持が必要。社員は、自分の見識が広がり、自分のためになっていると思って行っている。

Q2. 地域防犯パトロール中に通報するのは何時が多いですか？

A2. 通報する事態になることはめったにないが、登下校時、特に下校時は皆さんがばらばらになるので事件が起きやすいと感じる。



Q3. 勉強会では何をしていますのですか？

A3. 主に3つ。一つ目は、仕事のことで役立つこと。例えばごみの収集漏れはどうやったら防ぐことができるかとか、交通事故や労働災害を減らすためにはといったこと。2つ目は、会社の計画・方針、将来このようにしていきたいということを議論する。3つ目は、私自身が役に立った書籍を使って道徳的なことを社員に伝えること。仕事をやっていく上で大切なことは、

人としての考え方を学ぶことだと考えている。

■ 経営者講話振り返り

【塾生感想】

- ・ ゴミ収集以外の仕事をしていることを初めて知った。
- ・ リフォームや解体など、みんなの生活をよくしようとしていることが分かった。
- ・ パトロールや救命救急など、1年に1回しか遭遇しないようなことも気にしていてすごいと感じた。
- ・ 見守ってくれているおかげで、学べていると感じた。
- ・ チームが複数あるなど、初めて知ることが多かった。
- ・ 傘を準備していて困っている人に貸していることが印象に残った。
- ・ 自分以外はみんな師であるなど、大切な言葉がたくさん出ていた。
- ・ 人のやさしさに触れて、それに似た仕事に就いていてすごいと思った。
- ・ もっとも有意義な競争は自分との競争の言葉が心に残っていて、好きな言葉になりそう。
- ・ 親孝行手当や教育支援手当、ボランティア休暇等あり、いい職場だなと思った。
- ・ 会社の業務内容や、どのような信念を持っているのかを知ることができた。
- ・ ゴミは触りたくないイメージがあるので、福利厚生や地域貢献で就職してもらいたいんだなと思った。

○ロジックツリーを完成させ、できた人からレポートを作成

<塾長より>

- ・ 組み立てて文章を作る力は、一生使うもの。
- ・ レポートは読んでくれる人のことを考えきれいな字で書く。敬語表現も気を付けること。

■ グループでのコミュニケーションについて（グループワーク）

○情報の話し方・聞き方、伝えるタイミングなど、チームで課題に取り組むときのコミュニケーションがどれほど大事なのかを確認するため、2班に分かれてグループワークを実施。

<ルール>

- ・ 個人が持っている情報は、他の人には口頭でのみ伝える。（図やポイントとなる言葉は紙に書いてよい）
- ・ 制限時間は30分間。その間に課題を解決する。

《1班》



《2班》



○振り返りシートの作成

①個人として意見を述べたか、意見を聴くことができたか？②チームとして率直に話し合ったか、聴きあうことができていたか？③メンバーによる発言回数の偏りは？④話しかけられることが多い人と少ない人がいなかったか？⑤メンバー相互の感情の扱われ方はどうだったか？の5点について個人で振り返り、その後チーム内で意見交換を行った。

【1班】

- ・全体的にみんな発言できていた。他の人の発言が聴けていないと思ったときは、明るく注意するなど、明るい雰囲気できていた。
- ・メモも真ん中においてみんなが見やすくしたり、お互いに書いたりして配慮することができた。
- ・学校でやると、無駄話が多かったり、静かな子にどうやって話してもらうかが難しいのではないかとの意見があった。

【2班】

- ・自分の情報を自分から言う人が少なかった。また、自分の意見を押し付けている場面があった。
- ・メモを全員が共有できるようにとっていなかった。
- ・自分の意見に自信を持つことが大切だと感じた。

<塾長より>

- ・相手とコミュニケーションをとる際に、感情が冷え切っていると言いたくなくなるので、その場の感情も大事。
- ・チームとしてバラバラだと、チームがまとまらないので、改善していくことが大切。
- ・年々、お互いが情報を共有して、課題解決に向かう力が落ちてきているように感じている。

■論語素読、卒塾式に向けて

○論語素読 (P18~28)

<塾長より>

- ・論語には人として大切なことがたくさん書かれているので、折に触れて思い出してほしい。

○卒塾式スピーチに向けて、ロジックツリーの作成